

新春挨拶

新年のご挨拶



衆議院議員
渡辺 具能

新年明けましておめでとうございます。皆様方におかれましては、新しい年の始まりを清々しいお気持ちでお迎えのこととお慶び申し上げます。旧年中は皆様方に大変お世話になりましたことを厚く御礼申し上げます。特に、昨年9月11日に行われました衆議院総選挙に際しましては、皆様方の心からのご支援ご協力により4期目の当選を果たすことができました。皆様方からお寄せ頂いたご厚情ご期待に応えるべく、がんばって参りたいと存じますので、変わらぬご指導の程お願い申し上げます。

さて、小泉内閣が誕生して早いもので4年8ヶ月が過ぎ、今年はいよいよ小泉構造改革の総仕上げの年を迎えました。「民間で出来るものは民間で」・「官から民へ」を合言葉に大きな政府から小さな政府を目指して多くの改革に取り組み、その実現に道筋をつけてまいりました。我が国を取りまく環境は大変厳しく、改革は必要不可欠であります。その中で小泉内閣の責任は非常に大きく、残された期間私も微力ながらその達成のため行動して参りたいと思います。

しかし、改革には必ず痛みを伴います。政府・与党はその痛みを受ける多くの方々への配慮が必要だと思います。私は日本を元気で優しい国にしたいと思っています。当然、経済的に強い国を作るためには競争は必要ですが、勝ち組と負け組をそのままにしない、努力する弱者にも手を差しのべるのが政治の役割だと信じます。私のすきな言葉に、「強くなければ生きてゆけない。しかし、やさしくなければ生きる資格がない。」という言葉があります。この言葉

は国にも当てはまるのではないのでしょうか。努力する弱者へのセーフティーネットの重要性をしっかりと訴えていきたいと思えます。

また小泉改革の中では、社会資本整備関連予算というものが毎年削減されてまいりました。既に当初の削減目標は十二分に達成しており、このままの状況が続けば本当に整備が必要な多くの事業に着手することも出来ず、将来に大きな弊害が生じるのではないかと憂慮しています。たとえば、世界の至る所で発生する自然災害や、その悲惨な被害状況を考えれば、国民が安心して生活し続けるため、地震や津波等への防災対策はもっと早急に対処しなければなりませんし、今後は高度成長期に整備してきた道路や建物や港などの構造物の補修・改修等の事業も重要になってまいります。安全・安心な国づくりには必要不可欠な事業ばかりです。無駄を無くし効率的に予算を使うことは当然であります。社会資本整備はまだまだ必要であり不足しています。今後ともその重要性を強く訴え、引き続き予算の確保と円滑な事業の実施のため努力して参ります。

政府やマスコミ等の発表によりますと、昨年後半より各種経済指標に景気回復の明るい兆しが出はじめています。しかしながら、その恩恵をうけているのは一部の産業・地域であります。本年が本格的なわが国の景気回復の年となるためにも、諸問題に対する有効な諸政策の実現に努力して参りたいと存じますので、引き続き変わらぬご指導ご支援の程、何卒宜しくお願い致します。